

Banco de Tokyo-Mitsubishi UFJ Brasil S/A



1. マーケット・レート

			2月17日	2月18日	2月19日	2月20日	2月21日	Net Chg
Forex	USD/BRL	Spot	2,3870	2,3920	2,3920	2,3730	2,3540	-0,0190
	USD/YEN	Spot	101,94	102,35	102,25	102,33	102,57	+0,2400
	EUR/USD	Spot	1,3706	1,3758	1,3737	1,3720	1,3745	+0,0025
	BRL/YEN	Spot	42,65	42,73	42,71	43,14	43,70	+0,5600
Swap	Dollar Clean	6MTH(p.a.)	1,36	1,30	1,28	1,33	1,41	+0,0830
		1Year(p.a.)	1,88	1,81	1,78	1,82	1,88	+0,0520
	Real Interest	6MTH(p.a.)	10,98	10,94	10,92	10,88	10,88	+0,0002
		1Year(p.a.)	11,35	11,25	11,24	11,14	11,15	+0,0060
Stock	Bovespa		47.576	46.600	47.151	47.289	47.380	+91,63
Bond	CDS Brazil 5y		206,25	206,25	206,25	206,25	206,25	u.c,
	Global 40		113,550	113,950	113,950	113,820	113,950	+0,1300

* これらはインターバンク市場等におけるブラジル市場終了時のインデイケーションです。実際のレート提示は弊行担当アカウント・オフィcerまでお問い合わせ下さい。



2. 主要経済指標

3. 要人コメント

イベント	予想	実績	前回	
IBGEインフレ率IPCA-15(前月比)	0.68%	0.70%	0.67%	なし
IBGEインフレ率IPCA-15(前年比)	5.62%	5.65%	5.63%	
経常収支	-\$11663M	-\$11591M	-\$8678M	
対内直接投資	\$4000M	\$5098M	\$6490M	

4. 週間市況、トピックス

- 今週の為替相場は U\$1=R\$2.3880 で寄り付いた。
- 週初は米国市場が祝日で休場となったためレアル相場の流動性は極めて低く、限定的な値動きとなった。レアルは寄り付き後売りが優勢となり、2.39 台前半まで売られるも、大口の資金流入の噂が聞かれると 2.3790 まで反発した。
- 翌 18 日には中国人民銀行（中央銀行）が昨年 6 月以来となるレボを実施し資金を吸収したことから経済成長目標を引き下げるとの観測が強まり、リスク資産の売りが見られるとレアルも 2.39 台後半までは反落した。しかしトンビニ伯中銀総裁がインフレ抑制に対して前向きな発言をしたことが好感され、レアルは 2.38 台後半まで買い戻される展開となった。
- 週央にかけては米 FOMC 議事録の発表を控えレアルは週間安値となる U\$1=R\$2.4120 を付けたが、輸出企業による大口の資金流入の噂が聞かれ、2.3850 まで回復した。米 FOMC の議事録の内容からは失業率が利上げを決定する際の目安としている水準付近まで低下したことから、政策当局者は政策金利の方向性をめぐるガイダンスを近く変更することを検討していることが明確になったが、レアル相場への影響は限定的となった。
- 翌 20 日には伯失業率が予想を下回る結果となったことが好感されたほか、マンテガ伯財務相が 2014 年度財政目標を発表、基礎的財政黒字は GDP 比で 1.9% が設定されたことから市場ではより現実的な目標であるとの見方をする投資家が多くレアルは 2.3640 まで続伸した。
- 週末にかけては伯外国直接投資が予想を上回る結果となったことからレアル買いに拍車がかかり、レアルは週間高値となる U\$1=R\$2.3500 を付けた後、結局 U\$1=R\$2.3540 で越週した。

当資料は相場情報の提供を唯一の目的としたもので、投資勧誘を目的としたものではありません。投資の最終決定は投資家ご自身の判断でなさるようお願い致します。当資料は信頼できる情報源から得た情報に基づき作成したものですが、その情報の正確性、安全性を保証するものではありません。また、過去の結果が必ずしも将来の結果を暗示するものではありません。当資料は執筆者の見解に基づき作成されたものであり、弊社の統一された見解ではありません。当資料を使用することにより生ずるいかなる種類の損失についても弊社は責任を負いません。

Banco de Tokyo-Mitsubishi UFJ Brasil S/A



5.来週発表される主要経済指標

日付	イベント	期間	予想	前回
2/24	FGV消費者信頼感	Feb	--	108.9
2/24	FGV CPI IPC-S	Feb 23	0.68%	0.78%
2/24	貿易収支(週次)	Feb 23	--	-\$338M
2/24	税収	Jan	124050M	118364M
2/25	FIPE CPI-週次	Feb 21	0.75%	0.73%
2/25	FGV建設コスト(前月比)	Feb	0.45%	0.70%
2/26	SELICレート	Feb 26	10.75%	10.50%
2/27	FGVインフレIGPM(前月比)	Feb	0.31%	0.48%
2/27	FGVインフレIGPM(前年比)	Feb	5.67%	5.66%
2/27	GDP(前期比)	4Q	0.3%	-0.5%
2/27	GDP(前年比)	4Q	1.5%	2.2%
2/27	GDP(4四半期累計)	4Q	2.2%	2.3%
2/27	ローン残高(前月比)	Jan	--	2.4%
2/27	融資残高	Jan	--	2715B
2/27	個人ローン・デフォルト率	Jan	--	6.7%
2/27	中央政府財政収支	Jan	19.9B	14.5B
2/28	PPI 製造業(前月比)	Jan	--	0.65%
2/28	PPI 製造業(前年比)	Jan	--	5.75%
2/28	基礎的財政収支	Jan	23.4B	10.4B
2/28	純債務対GDP比	Jan	33.7%	33.8%

6.来週の為替市場注目点

予想相場レンジ : 2.35-2.40

今週は米 FOMC 議事録の発表が市場で大きく期待された。議事録の内容からは債券購入プログラムの縮小を休止する可能性をほとんど示唆せず、「比較的早期のフェデラルファンド(FF) 金利引き上げが適切になると可能性」を指摘した当局者が「数人」いたことも明らかになった。市場では大きなサプライズではなく、レアル相場への影響も限定的となった。一方、国内では数多くのプラス要因が見られた。まずはトンビニ伯中銀総裁によるインフレ抑制に対する前向きなコメントのほか、マンテガ伯財務相による 2014 年の財政目標が市場で好感され、レアルは他エマージング通貨比で大きく反発 1 ヶ月振りに 2.35 台を受けた。来週は国内の数多くの重要経済指標の発表が予定されており、レアルは更に上昇する可能性がある一方、海外では米 GDP 成長率の発表等を中心に数多くのイベントを控えており、結果次第では米資産購入の減速懸念が再びリスクオフモードをもたらす可能性があるため、レアル相場のボラティリティーはやや高いことが予想される